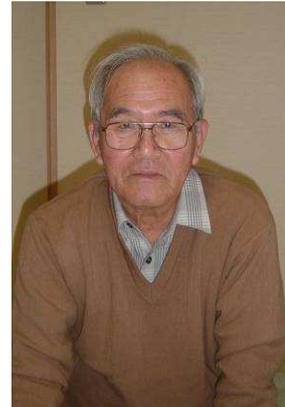


昭和の南海地震体験談

氏名: 上田 量朗(うえだ かずろう)
生年月日: 昭和10年3月29日
地震を体験した場所: 田辺市
当時の家族状況: 祖父、祖母、母



1) 地震発生時の状況

当時、小学6年生 13歳の私は、母と隠居屋で、祖父母は、二階建ての母屋で寝ていて、地震で驚き、母に起こされ、着替えに手間取ったものの、2年前に三重の尾鷲で、叔父さんが、東南海地震津波で被災した話を、聞いていたので、母に頼まれ、道の向こうの海岸に、海の様子を見に行く。

途中で「津波や！」という漁師の声を聞き、家に戻って母に言うと、「逃げないぞ、家に座っといたらええ！」と言い避難を拒む祖父を説得して、連れて、家の裏から小学校の横を通り、山に避難。

家の裏を通るとき、溝に足をはめた祖母が、普段水が無いはずの溝に水があつて、津波は溝を伝ってくるのか、と思いながら逃げた。

2) 津波襲来時の状況

裏山に登ったら、近隣の人10人ぐらい居て、枯れ木を集めて焚き火した。

集落挟んで向かいの山にも人が、避難している様で、焚き火が見えた、その焚き火の「かがり火」が右に左に動く、水の無いはずの下の方の田に、映るので、水が来ている事が分かり、流れるたびに左右に動くので、今、津波が来た、今、津波が引いたというのが分かった。

3) 家族の行動・被害

家族全員、一緒に避難して無事。

4) 集落・周囲の被害

山から、来た道、降りて、家に行くと、戸はちゃんと嵌っているが、破れているし、戸を開けたら、味噌糞一緒、泥の海だった。水は完全に引いていた。

表を見ると、線路前の家は、基礎石残して流出、どこの家も同様なもので、浸水は天井下までだった。同じ家でも、海側は流出家屋があり、程度は少し酷かった。

子供が溝で死んで居た等、海まで流されて、昼頃、溺死体で発見された人もいた。

家から逃げないで、何かに掴まって助かった人、逃げていたのに荷物を取りに戻ったため

